

## 1. 本年度の研究について

研究主題としてフレンドタイムを立ち上げて、今年で5年目になる。しかし、今町小学校では、それよりも前から人間関係プログラムとして、ソーシャルスキルやグループエンカウンターに取り組んでいた。主題研究では、算数や国語などの教科にも取り組んだこともあるが、それでも人間関係プログラムは無くなることはなかった。それは、自分の感情を抑えられない子ども、規範意識やコミュニケーション能力が低い子、あいさつができない子など、本校児童の課題を改善していきたいと考え続けてきたからである。今町小学校が、人間関係プログラム（フレンドタイム）に絞って主題を進めていこうと決めたのは、今町をつくってきた現職の先生方が、本校にとってそれが最善であると賛同したという経緯があつてのことである。

近年、離籍する児童、児童同士の言い争いによる怪我、ガラスや学校器具等の破損が、大幅に減少してきている。しかし、子どもたちの落ち着きは、一朝一夕で築いたものではなく、先輩の先生方が今までに多大なる苦勞と犠牲のもと築かれてきた賜物である。これが当たり前で、普通だと感じ、気を緩めることはできない。積み上げるのは大変だが、崩れるのは早い。答えは「ある」ものではなく、全職員で知恵を出し合い児童の実態に合わせて「模索し続けていく」べきもの。それが、本校の研究であり、子どもたちの課題改善に繋がる道である。ひいては、子どもたちがソーシャルスキルを十分に獲得することができることで、自分の将来に自信をもって生きていくことも期待できると考える。

## 2. 本研究で目指す子どもの姿

- ・ 自分の気持ちに気付き、自己をコントロールできる児童（ストレスマネジメント）
- ・ 社会的スキルを身に付け、時と場合に応じた行動ができる児童（ソーシャルスキルトレーニング）
- ・ 自分や友達によさに気付き、互いを認め合うことができる児童（構成的グループエンカウンター）

## 3. 研究年次計画

- 平成28年度 ～自分自身と向き合い、友達を認めることができる児童の育成～
- 平成29年度 ～対人スキルを日常化するためのカリキュラムづくり～
- 平成30年度 ～学習したソーシャルスキルの定着化（いつでも、どこでも、だれにでも）～
- 令和元年度 ～学んだ対人関係スキルを自ら実践する児童の育成～
- 令和2年度 ～対人スキルを活用するよさを実感する児童の育成～

## 4. 今年度のフレンドタイム研究について

基本的に、昨年度までの進め方を踏襲する。人間関係プログラムの名称を子どもの公募により「フレンドタイム」とした。ストレスマネジメント「自分の心とキャッチボール」（イメージ呼吸法・肩上げ動作法）、ソーシャルスキル教育（SSE）、構成的グループエンカウンター（SGE）の3つを研究の柱とする。またそれらと併せて、異学年交流による「たてわり活動」の充実を図るようにする。

ストレスマネジメント「自分の心とキャッチボール」については、フレンドタイム実施日（以下参照）のぐんぐんタイムに放送委員会による放送にて実施する。ソーシャルスキル教育、構成的グループエンカウンターについては、昨年度までの研究を基に、各学級の実態などに合わせて改善し実践する。

よりよい人間関係を形成する特別活動の研究

目指す児童像

- ・ 自分の気持ちに気付き、自己をコントロールできる児童
- ・ 社会的スキルを身に付け、時と場合に応じた行動ができる児童
- ・ 自分や友達によさに気付き、互いを認め合うことができる児童

異学年交流【たてわり活動】の充実

アンケートや  
感想による検証

- 自己評価
- 振り返り
- 学びの足跡

全教職員の行動  
観察による検証

フレンドタイム

【 系統的・継続的な取組 】

【イメージ呼吸法】

【肩上げ動作法】

【エクササイズ】  
ゲーム的要素を含む  
【考えや感想の交流】  
感情に焦点を当てた  
指導

【ロールプレイ】  
構成的グループエンカウ  
ンターとの関連付け  
【考えや行動の仕方の交  
流】  
スキルに焦点を当てた指

ソーシャル  
スキル教育

- ・ 正しい言葉遣い
- ・ 礼儀作法
- ・ 時と場をわきま  
えた行動

ストレスマ  
ネジメント

- ・ ストレスに対  
する予防
- ・ 自己コントロ  
ール能力の育成

構成的グループ  
エンカウンター

- ・ 自己、他者理解
- ・ 他者受容  
よさの認め合い
- ・ 自己有用感
- ・ 信頼体験

- 第1段階…ストレスの概念を知る  
第2段階…ストレス反応に気付く  
第3段階…対処法を習得する  
第4段階…対処法を活用する

児童の発達段階・実態

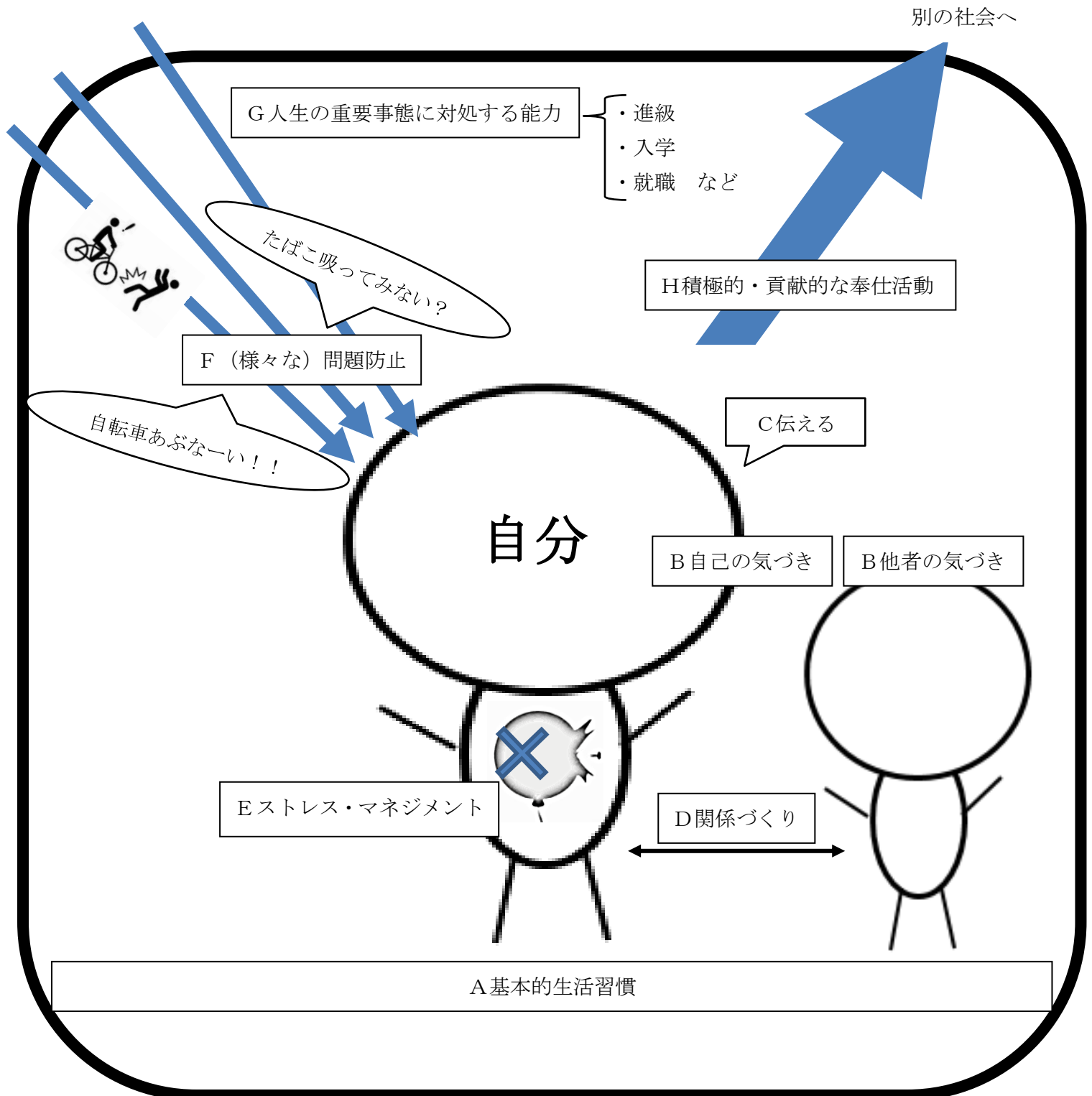
行動観察、アンケート (Qu・hyper-QU・SEL-8S) 等による実態把握

## 6. Sel-8s の捉え

8つの社会的能力を育てる

- |                  |                |
|------------------|----------------|
| ①A自己への気づき        | ②B他者への気づき      |
| ③C自己のコントロール      | ④D対人関係         |
| ⑤E責任ある意思決定       | ⑥F生活上の問題防止のスキル |
| ⑦G人生の重要事態に対処する能力 | ⑧H積極的・貢献的な奉仕活動 |

これらのスキルを、総合的に身に付けることが、社会に対応するために必要であるという考え方



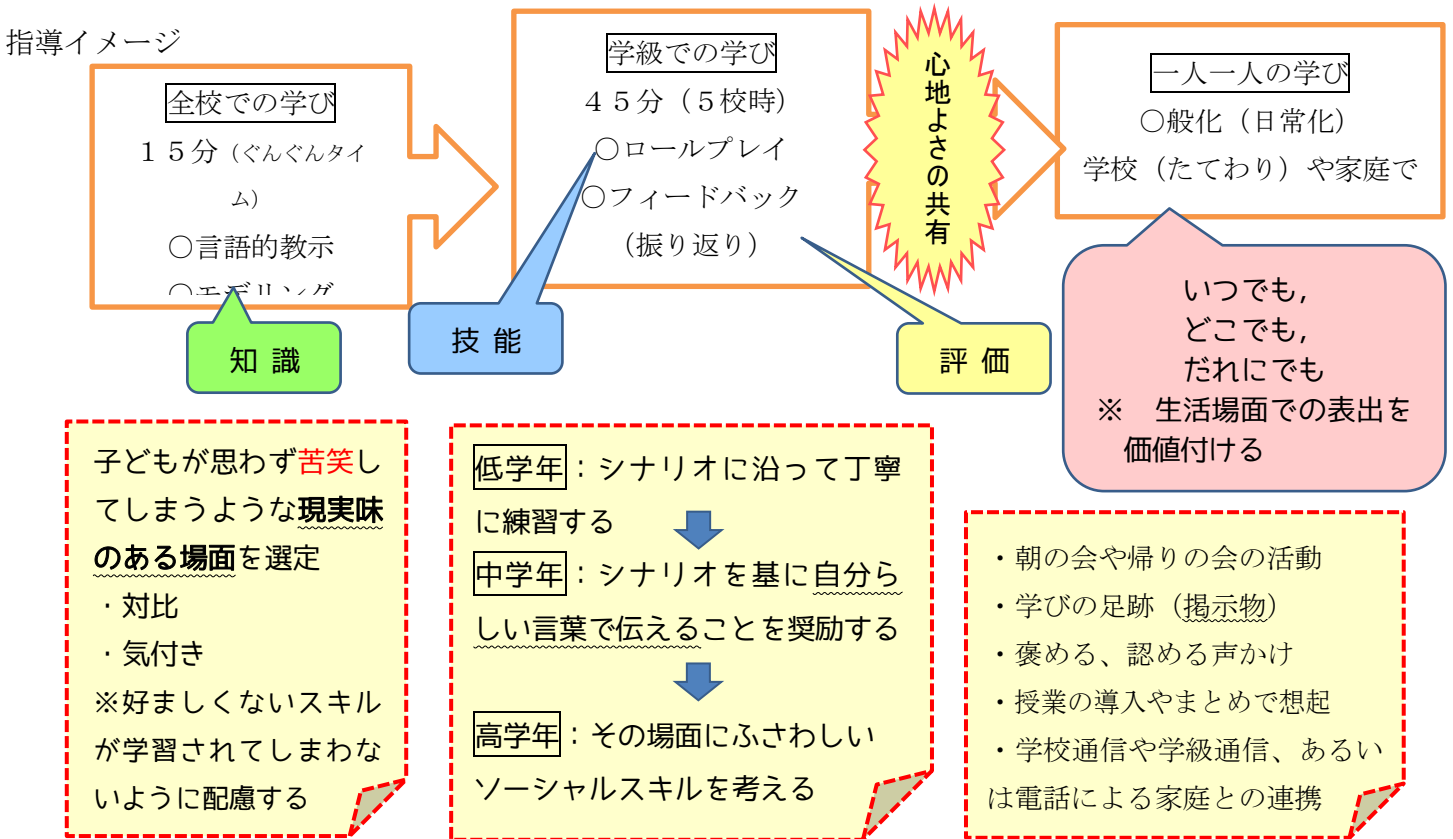
## 7. 指導にあたって

- 毎月の第1、第3水曜日のぐんぐんタイム及び5校時の時間をフレンドタイム実施日の基本とする。(変更あり)
- 各学年、月に1コマ(45分)の時間を確保し、さらに価値を深めるように努める。※時数は、学活または道徳科でとることとする。道徳科においては、関連がある題材は積極的に活用する。

### ※ 実施日

- 1回目…各月の第1週目(水曜日) 全校実施  
ぐんぐんタイム(14:05～) ※先そうじ
- 2回目…各月の第3週目(水曜日) 各学級  
5校時(14:25～) 45分の1コマ

### 指導イメージ



学習展開	子どもたちの意識の流れ
①言語的教示【言って聞かせ】	大切なことだな。
②モデリング【やってみせ】	自分にもできそうだな。
③ロールプレイ【させてみて】	いい気もちだな。
④フィードバック【ほめて・価値付け】※改善も	スキルを実行してよかったな。
⑤一般化【定着・日常生活での実践】	これからもこのスキルを使っていこう。

### その他の留意点

- 昨年度取り組んだ内容で大切な価値や未熟なものは、再度取り入れ、繰り返し指導をする。
- フレーズがあるもの「おかめ」「こわか」などは子どもたちにとって親しみやすく、分かりやすいので積極的に取り入れていく。※ないものは自分でつくるのもあり 例「おかめたこ」
- SEL-8Sだけでなく、CSS(学級ソーシャルスキル)、新版いのち、道徳教科書生きる力なども活用して扱う。
- おかめのあいさつパワーアップデーのように、その他の価値においても、全校で取り組み、達成感や成就感を味わえる取り組み方を工夫する。よりよい児童の姿が「見える化」できるようにする。

- 日常化につなげるため、実践後のワークシートや感想（ふりかえりシート）を記録していく。その際、学年や実態に応じて内容を変更してよい。
- 全校共通のふり回りアンケートを実施することで、児童がソーシャルスキルをどのように捉えているかを見とるようにする。
- 主題推進のための掲示物については、子どもたちの目によく触れる場所に掲示し、日常化につなげる。
- 北九州子どもつながりプログラムも参考にしながら実施する。
- 年間実施計画を基に、全職員が同じ価値の定着化に向けて取り組んでいく。（別紙参照）
- たてわり活動と各月ごとの価値を意識的に関連させ、全職員で声かけすることで定着化を目指す。
- フレンドタイム通信を、家庭に配布することで、家庭との連携を図る。
- 研究紀要作成のため、指導案（略案と本時案）を2本提出する。（別途提案）
- 「ゆっくり 楽しく 続けて」を心がけて指導に当たる。